

令和4年度第1回少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組研究会会議録

開催日時	令和4年7月28日(木) 19:00~20:30
開催会場	松尾公民館1階ホール
出席者	<p>座長：熊谷邦千加教育長 副座長：後藤正幸</p> <p>研究会委員：木下潤児、湯本正芳、齊藤明宏、伊藤拓生、竹内文人、大場孝、安田完爾 熊谷兼富、宮下博、山浦貞一、北澤正光 (欠席者) 高田浩靖、渡邊義昭、坂野慎二(敬称略)</p> <p>事務局：松下徹教育委員会参与、桑原隆学校教育課長、今井栄浩学校教育専門幹 麦島隆教育支援係長(リモート)、木下耕一教育支援担当専門主査(リモート) 櫻田誠二教育支援担当専門主査(リモート)、桐生尊義教育支援指導主事 櫻井英人課長補佐兼総務係長、上沼昭彦課長補佐兼学務係長、仲田好寿保健 給食係長(リモート)、上柳智広児童クラブ担当専門主幹(リモート) 代田暢志課長補佐兼教育企画係長</p>
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 次第</li> <li>2 委員・事務局名簿</li> <li>3 研究会設置要綱</li> <li>4 報告・説明事項</li> <li>5 協議事項</li> <li>6 学校運営協議会の主な意見</li> </ol>
記録者	事務局桐生
<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状の交付 ※省略</p> <p>3 座長挨拶 熊谷教育長</p> <p>4月より教育長を拝命しまして前の教育長代田さんから替わりました熊谷邦千加と申します。この会は昨年から開催させていただいてご協力いただいているところですが、引き続きお世話になりますので年が替わりましたけれどもよろしく願いいたします。新型コロナウイルスの医療警報がでまして、そんな中で1学期は子どもたちの感染が非常に多くなっていて、学級閉鎖等が7月中盤から多々出てまいりました。ただ夏休みに入りましたので、児童クラブ等では心配な状況が続いているところでございます。そういった中で今日お集まりいただいて、しかも市役所と違ってエアコンの効きもいまいち悪いようなところで大変居づらいところで申し訳ございませんがよろしくお願いしたいと思っております。</p> <p>また、第一回の開催がこの時期になりましたこと、本当にもうしわけなかったなあと思っております。昨年度の委員会で本年度の進め方につきましてはご提言をいただいたことを元に進めさせていただいて、すでに臨時の学校運営協議会の方も数々行われつつあります。そんなこともこのあと報告させていただきたいと思っております。その研究会のルーツにつきましては、4ページの研究会設置要綱にありまして、少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組の進め方等について協議いただくということでございます。またそんな目的を再確認させていただいて今年度もよろしくお願い</p>	

いしたいと思います。

また、設置要綱の中に座長は飯田市教育長をもって充てるというふうになってございますので、さきほど申し上げさせていただいたように座長を務めさせていただきます。また副座長につきましては第5条の前のところに副座長は座長が指名するとございます。僭越ではございますが、昨年もお願ひした学識経験者の後藤正幸さんにお願ひしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

先日、信濃毎日新聞の報道で、7月19日でしょうか、一面を飾っておりましたけれど、そこに児童生徒数の減少ということで取り上げられておりました。皆さんもご覧になったのではないかと思います。全国で10年前の2010年と2020年を比較しまして、100万人の児童生徒が減少しているという報道でした。飯田市ではこの10年間で1342人の減少という報道になっておりました。この人数は、ちょっと例えがいいか悪いかという問題がありますが、大きな学校で例えますと、今年の伊賀良小772人と旭ヶ丘中学校の522人おられますけれども、その2校分の児童生徒がこの10年間でいなくなったという数になるなあとと思います。また長野県の人口調査というのも県民新聞の方で報道されておまして、0歳児と15歳児の人数差をみますとマイナス246人減となっております。これは35人規模学級で考えてみますと今よりも7クラス分の子供たちが減ることになります。学年7クラスの学校といいますと、ちょうど校長先生がいらっしゃいますが緑ヶ丘中学校の3学年7クラス分がいなくなるという大変残念な状況ではあります。少子化が進んでいるという状況にわかっていてもなかなか驚かざるをえないなあとという思いでおります。こうした客観的な状況を受け止めながらもこれからの飯田市の教育というものを考えていき、特に今現在行っている飯田コミュニティースクールとしてそれぞれの地域とともにある学校ということをしつかりと頭の中に置きながら、これからの未来を見通したうえで子どもたちにとってよりよい教育環境を見据えてこれからどう進めていけばよいかと、この研究会で忌憚のないご意見をいただければと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

#### 4 委員自己紹介 ※省略

#### 5 報告・経過説明

座長 令和2年度からの経過について事務局 説明をお願いします。

事務局 令和2年度からの経過について本年度新たに任命された、取組研究会の委員の方々もいらっしゃいますので、取組研究会の今までの経過につきまして主な取組を簡潔に報告・説明いたします。

資料の5Pからご覧ください。まず、令和2年12月15日に第1回の研究会を開催しました。ここでは「児童生徒が減少していること」など学校に関わるデータを提示し、研究会委員の皆さんと共通理解をしました。また、将来の子どもたちにとって望ましい教育環境はどんな学校か、数合わせではなく児童生徒を主役として、議論を展開していくという方向性を確認しました。

令和3年3月には第2回研究会を勉強会という形で開催しました。坂野先生からは「少子化における児童生徒の教育環境について」、伏木先生からは「これからの学校教育に求められる学びをど

うイヴズするか」についてお話しいただきました。

令和3年5月には第3回の研究会を開催しました。令和3年度の各学校運営協議会で、この課題についての意見交換を進める上で、その進め方や提示資料について協議しました。協議の中で、令和3年度の意見交換は、結論を求めるものではなく、自由に意見を出し合う場であること基本に意見交換を進めるものとししました。この研究会での協議を基に、令和3年の5月から7月にかけて全ての学校運営協議会で意見交換を行いました。

令和3年9月に令和3年度第1回の研究会を開催し、学校運営協議会での意見交換内容の報告と、2学期における意見交換の進めた方について協議しました。1学期の学校運営協議会における意見交換を整理すると、「児童生徒数の減少や校舎の老朽化が進んでいる中学校区」では、学校の枠組みについての意見が出る一方、規模が小さくなくても地域の学校として存続させたいという意見、「比較的学校規模が大きな中学校区」では、今の教育が地域にふさわしいものか議論すべきといった意見、「小学校と中学校の学校運営協議会を合同で設置している中学校区」では、この仕組みを活かして小中連携・一貫教育を進めていくという意見もありました。

令和3年の9月から12月にも各学校運営協議会における意見交換がおこなわれました。

令和4年3月に第2回の研究会を開催し、令和3年度の意見交換をふまえた今後の進め方について協議されました。令和3年度における学校運営協議会での意見交換を検討テーマ別に簡潔にまとめてみますと、「特色・魅力ある学校づくり」のテーマについては、地域の子供は地域で育てる、地域に愛着を持ち将来地域を担う人に、地域の特色を生かした学校、小中連携で地域に根ざした学校づくり、

コミュニティスクールの取組を通して自然や伝統や文化などの故郷の良いところを大事にいつか帰ってきたいと気持ちになる。といったご意見。

「学校の配置・枠組」のテーマについては、学校には地域の中心的な役割がある、施設一体の小中一貫校や義務教育学校の検討、実情を踏まえた通学区の見直し、ICTの活用による他校との繋がりや連携といったご意見をいただきました。

これらの意見や今までの経過、ロードマップを基に取組研究会では、令和4年度の検討の進め方、方向性が協議されました。

以上、令和2年度からの経過について説明させていただきました。よろしく申し上げます。

座長 令和2年度からの経緯についてご質問、ご意見がありましたらお出しください。

経緯についての質問なし

## 6 協 議

(1) 令和4年度の検討の進め方について

座長 事務局 説明をお願いします。

事務局 令和4年度の検討の進め方について、関連がありますので、一つ目の学校運営協議会における意見交換、2つ目の教育委員会事務局内研究チーム、と取組研究会における協議事項の予定について一括して説明させていただきます。

資料の7Pをご覧ください。先程の経過にもありましたが、令和3年度は各学校運営協議会での意見交換を進め、地域の課題をそれぞれの視点から知ることができ、また、情報を保護者に発信し、学校を取り巻く地域課題を共通認識できました。しかし、保護者や地域が学校の現状を知るスタート地点に立ったところであり、令和4年度は教育環境のあるべき姿についてもっと論議を深めていく必要があります。そこで進め方の方向性ですが、4つ点があるうち1つ目2つ目については、学校運営協議会や意向調査を行う上での方向性となります。

学校運営協議会における意見交換の進め方を7P下段の囲いに具体的手法としてまとめました。

「特色ある学校づくり」をテーマに活発な意見交換が行えるように、まずは、あり方検討の目的や検討の進め方、今年度の取組を十分理解いただくこと。2つ目として全国学力・学習状況調査生徒質問紙や学校評価アンケート等の結果など、客観的データも用いて、主観的な視点を合わせながら子どもたちの姿について共通理解の上で意見交換を行う。3つ目として、この子どもたちが5年10年後の社会に出る頃の望ましい姿を思い描きながら、学校と地域が協働して、どのような特色ある学校づくりを進めていったらよいかについて、中長期的な視点からの意見交換を行えるように進めて参ります。

ここで、既に各学校においては今年度の学校運営協議会が開催され、意見交換を行っていただいている状況です。本来であれば年度初めにこの研究会を開催し、前回令和3年度末の研究会で協議された「令和4年度の進め方について」改めて確認、協議の上、進めさせていただくところですが、臨時学校運営協議会が5月から開催されたところもあり、学校運営協議会における今年度の進め方の一部については、前回令和3年度末の研究会で協議・決定いただいた方向性を基に進めさせていただいている、という形となります。

方向性の3つ目4つ目は、小中一貫教育やこれからの学校づくり、学びの環境づくり等の専門研究や、諮問・答申機関の立上げ検討といった、教育委員会事務局における方向性になります。具体的手法については8P上段の囲みにありますが、1として昨年度から行っている学校運営協議会等での意見交換を基に、保護者へのアンケート調査を行います。2として昨年の学校運営協議会のテーマの一つであった「学校の配置・枠組」については、様々なご意見をいただいておりますので、中・長期的課題解決に向け、国の審議会答申や先行的事例の調査、外部有識者からのアドバイス等を基に教育委員会内で専門研究を行っていきます。3として今後の学校のあり方の方針決定に備えた諮問・答申機関の立ち上げに向けた検討を行って参ります。

最後に令和4年度の、この取組研究会における協議スケジュールですが、8P下段囲いの中に第1回から第3回の取組研究会の協議事項について予定を示させていただきました。第1回取組研究会については、本日の次第の協議事項のとおりですが、第2回取組研究会においては、令和4年度下半期の取組みに向けた協議事項として、保護者等へのアンケート調査の実施や集約に伴う協議、また、今後の方針決定に備える上で必要となる諮問・答申機関についての検討協議をいただけるよう11月の開催を予定しております。第3回取組研究会は、学校区ごとのアンケート調査や、意見交換といった意見集約の結果報告や、教育委員会の専門研究からの検討報告、また、これらの意見集約や専門研究の検討から導かれる配置・枠組の方向性、そして令和5年度の進め方についての協議検討をいただけるよう来年3月頃の開催を予定しています。

以上、令和4年度の検討の進め方について一括して説明させていただきました。よろしくお願ひします。

座長 今日では2つの協議の柱がありますが、まずは検討の進め方ということで、第1回の研究会であります。すでに別冊のように臨時の学校運営協議会の方はほぼ終わっております。その記録等もお手元にあるかと思えます。感想を含めてでも結構ですので、進め方とともにお感じになっていること等お聞かせいただきたいと思えます。

委員1 うちには丘の上のほとんどの小学校中学校に関係があるのですが、学校運営協議会でもいいんですけど、本当のところは現実に子どもさんたちが浜井場小学校なら浜井場小学校へ、丸山小学校なら丸山小学校へ行っているお子さんの保護者の皆さんが、もうちょっと前でも出て話を進める方が、自分たちのような年寄がどうのこうのではなくて、もちろん学区の問題などが出てきたときにはまちづくりで考えていくが、それより一番必要なのはやっぱり現在学校へ行っておる保護者の皆さん、それから幼稚園へ行っていてこれからその小学校へ行ったりする保護者の皆さんの意見を集約していくことがいろいろな問題の一番早い解決方法だと思うんですよ。どうしても合併の問題などは出てくるし、小規模の学校、浜井場小学校の人数が少なくなる、それはそれでいいんですけども、将来どのくらいの期限でどうなるかがはっきりわからない。浜井場小学校なら浜井場小学校、丸山小学校なら丸山小学校が独自の特色ある教育がなかなかやりにくいと思うんですよね。教育委員会さんの方で方向性を出していただいて、短いか長いかはわからないけれど、それならそれでこの期間は浜井場でも丸山でも特色ある教育を10年くらい先を見つめながらやっていかないと。先が見えない中で特色ある学校づくりと言われてもなかなか難しいんじゃないか。

委員2 令和3年度に研究会に関わらせていただいて、行政、教育委員会の考えている長々しい名称の研究会が何を目的として研究会が設けられているかが、もっと明確に、ストレートに明確に出していかないと、特色ある学校づくりというこれで誤魔化しているような気がする。統廃合の問題だとか校舎の拡張整備が一番のメインであったら単刀直入に地域にこういう状況ですよということを示すと同時に、飯田型モデルカリキュラム、コミュニティスクールを推進していくという（2つを）並行して進めていくということを教育委員会、行政が主導していってもらわないと、私も学校運営協議会、コミュニティスクールに何年も関わらせていただきましたけれど、地域で特色あるっていてもそれぞれ取り組みの歴史もあるし、地域の性格もあるし、なかなか教育委員会さんの思っている方向に協議が進められないなあと思っています。第1回の学校運営協議会の記録を鼎に限って読ませていただきましたが、鼎は鼎で特色ある学校づくりを進めていく、鼎は統廃合や校舎の問題も視野に入れながらも飯田型モデルの教育環境を作っていかなければならないというように協議が継続されていることを確認させていただきました。

委員3 指名されるが、今回は発言なし

委員4 旭ヶ丘中学校区3校で小中一貫の研究会が毎年行われている。私も出させていただいて、地域としての要望を述べさせていただきながら地域として協力してきた。しかし地域でできることは限りがあり、学力的なものについてはわからない部分があるので、素人ですから、公民館が中心になって、例えば寺子屋とか、中学生ボランティアを募集して小学生を教えたりしている。委員2

も委員1がおっしゃったのと同じで、ある程度教育委員会の方でビジョンを示してもらった方が議論がしやすいと僕も思っています。結論ありきじゃないぞというお話でしたけれども、何年か経てば先が見えてくるし、そういうことも含めながら議論していかないといけない。旭ヶ丘中の学校運営協議会で出たのが、特色ある学校づくり、魅力ある学校づくり、どっちが大事なんだ？というような話も出て、学童の少ない学校では特色ある学校づくりもできるし、魅力ある学校づくりも教育委員で言うんですか？そういうのも含めながらできるんですが、伊賀良は結構中途半端な大きさ、まあ大きい方なんですが、何をしたらいいんだろうなということが見えづらい部分もあるのかな、と私個人的には感じています。

委員5 委員1の方から話がありましたが、実際に学校に通っておられる保護者やこれからその地域の学校に通う保護者の意見を聞くことが大切だということを私も感じている。学校運営協議会に昨年、今年と出ささせていただきましたが、学校運営協議会の皆さんはうちの学校のことを本当に大事に考えていただいている、その議論はいつも熱心なものでございますし、うちの学校の今後の在り方等について真剣にお考えいただくということは、これからもこの問題について議論することは学校地域にとってプラスになると考えている。ですので、幅広い意見を聞きながらご意見を大切に学校の在り方をより良い学校にしていくというきっかけにはなるということ実は実感しています。

委員6 うちの学校の学校運営協議会の中で出た意見の中で、地域の方と学校の中で意見を重ねる中でそういうことが見えてくればいいなあという意見が出ていた。この議論を重ねて1年くらい経っているわけですがけれども、そろそろ教育委員会さんの方の案にありますけれども、専門研究を行っていただきまして、学校のあり方の答申機関で具体的に飯田市としてはこんな方向にいきたいということそろそろ出していったきたいということ私を感じております。どんな形になるかっていうのはその時になってみないとわからないものがありますけれども、そろそろそういう準備に入っていくのもいいのかな、と思います。

座長 現状に参加していただいているのご感想やお考えをご発言いただいたところですが、そんなことを踏まえまして、私としてはまだまだ願いがあって、まず枠組みの前にどういう方向性を持った学校づくりをしたいのかということをお考えいただく上でそのあたりの枠組みを考えていきたいというそういう願いでやってきたんだろうと理解をしているのですが、そんなことの中の現状はどうあったのかという途中での資料を基にしてこの臨時の会はどういうために行うのかということ改めて資料等を使って説明させていただいたりしたところでございます。今後の取り組みの進め方については、8ページにありますように、まず現状を踏まえつつ第2回取組研究会、第3回取組研究会ということで、進め方について先ほど事務局の方から説明させていただきましたが、進め方を含めてご意見を頂ければありがたいのですが、どうでしょうか？

委員7 7ページ8ページの四角で囲まれた部分を読ませていただいて、出口としてこれから審議会を設けて、ということなんですけれども、その審議会に何を準備していけばいいのかということ考えたときに、事務局の方は市教委としての基本的な考え方だとか事業の進め方というのを1つ

の基本方針として出しますよ、ってうたってくださっているんですよ。飯田市の特徴的なことは、多くの市町村というのは適正配置に向けた基本方針が多いと思うんですよ。だけれども、飯田市は教育環境の充実に向けたいわゆる基本方針を出していきましょうということで、この2年間丁寧にやってきたと思うんですよ。ですので、事務局の方がこの基本方針、今も地域の方ですとか学校の方からそろそろ出口に向かって、というご意見がありました、その市教委としての基本的な考え方、事業の進め方をワンセットとして基本方針としてまとめていただく。じゃあ地域や学校はどうかっていうと、7ページ下段四角の中で、これは先ほどからのご意見にあるように、地域によっていろいろ違っているし色がありますよね、じゃあ各地区、学校の具体的な方向性についてはそれぞれまだ検討課題も含まれているので、それを検討課題としてまとめていただいて、この2つをもって審議会の方に諮って審議会の方でこれを料理していただくというか、市民を巻き込んで協議していただくような形がいいのかなあ、とお話を聞きながら思ったんですけども。

座長 ありがとうございます。今までの経緯も含めて、適正配置に向けたではなく、教育環境の充実という地域の特性を生かしたような教育環境の充実ということで検討してきたということがあります。ありがとうございます。

委員4 学校のグランドデザインというか学校の目指すところ、たとえば旭ヶ丘中でも言ってきたんですが、目標が多すぎるんですよ。校長先生が引退するときにこれだぞ、という目標を出しますよね。それが何年も残るんですよ。校長先生が代わられても。なので子どもたちは迷うんじゃないかな。そうするとどういう学校にしたいのかというのが学校自身もあやふやになって全部書いてあるんですよ。何年か前の目標もね。子どもたちは迷うんじゃないか。さらにその学校の今年の目標がある。その辺に無理があるのではと感じている。

委員8 この会が始まった時から委員を務めさせていただいているので、一応流れは承知しているつもりなんですけれども、そういう流れでみていったときに遠回りに見えるけれども本年度の位置付けはすごく大事な位置づけの1年になるなと思っているんです。というのは、先ほど委員1からも出てたんですけれども、保護者の皆さんに、例えばこの飯田市の10年後までのそれぞれの学校の現状がどのくらい理解されて伝わっているのかというのが今までの経過の中でも話題になっていて、事務局の方で資料を各学校ごとのものをまとめていただいて、飯田市全体のまとまったものを保護者の手元に資料として家庭配布されたのがついこないだの3月なんですよ。本当は去年の10月頃に渡す予定で進められていたんですけど、コロナなどの様々な事情の中で各家庭に配布されたのは3月。この委員会に絡んでいる方とか学運協に各学校で絡んでいる方はその当初から意識をもって学校の今後の在り方等について考えられたり意見交換されたりしてきているので、随分話や意識が進んでいるような風でいるけれど、一番大事な保護者の皆さんや、例えば当事者である小学生や中学生にとっては、自分の学校の今後がどんな状況になっていくのかというのを、具体的に数値やそういうもので示されたのはついこの間の3月のことであって、そういう状況の中で今後10年後くらいを見据えてそれぞれの学校の望ましい在り方、特に学習環境、教育環境等について考えましようといっても、正直言って多くの方は「え〜、こんなに一気に生徒数や児童数が減っちゃうの」ということについてわかってくださった、そんなような状況なので、そういうことを考えると

遠回りのように見えるけれど今年は各学校ごとに、保護者の皆さんにその資料を基にして具体的な話し合いをする場をぜひとっていただきたいな、と思うんです。そういうものを踏まえただけでアンケートをとるという事務局からの提案ですけれど、そういうのがきちっと踏まえられてのアンケートになっていると、アンケートを集約した結果等についてもかなり参考になるというか、今後考えていく上で大事なものになってくると思うので、そういう意味でも今年ぜひ各学校で、学運協で話し合っているだけではなくて、学運協で話し合った結果を保護者の皆さんや中学生は十分考える力がありますので、中学生の生徒の皆さんにもこんなことが大人の中で話し合われているんだということを是非伝えていただいて、みんなで今の状況を共有して理解していくということがまず大事なことはないかと思います。本当は去年頃までにそういうことがすすまってきたらよかったですけど、なかなかそこまでいってなかったという状況だと思うので、今年は是非そういうところを丁寧にやっていただいて次のステップへいくという位置づけになるのかなあと私は思っています。

座長 ありがとうございます。いまのようなご意見をいただいて、保護者の立場で委員9いかがでしょうか。

委員9 考えがまとまってないところもあるんですけども、そもそもこの会は児童生徒の教育環境の充実を中心に考えておられるということが一番最初に思ったことです。疑問みたいなことで話が前後してしまって申し訳ないんですが、学校に特色や魅力を感じられるように各学校で打ち出していくことを考えておられるのかあとと思うのですが、そもそも特色があったら誰に対するアピールなのか、子どもたちに特色っていても当たり前が存在しているところなのでそれって誰にアピールするのか、例えば下久堅や飯田市に向けたアピールなのか、それとも下久堅の中でこれって特色なんだよってアピールするものなの、というのははっきりしておかないと、それに意味があるのか、例えば下久堅に特色があるから他のところから下久堅に来てくれる、生徒としてぱっと来てくれるというものではないじゃないですか。なのでどういう風にやるのかなということをやったときに、そもそも特色っていうのを大人が理解していなければ駄目である。下久堅の学校運営協議会の時にあったんですが、大人への教育が大事なんじゃないか、大人というのは私たちのことなんですが、親たちの教育がちゃんとしてないとそもそもそこから先へは進まないという意見があり、なるほどなあと思ったところです。そもそも親がこの地域こういうふうにいるよ、としゃべれないものが特色であるわけがないんで、そうですね、親の教育、地域を通してということもあると思うんですけど、学校は勉強するところというのは当たり前として、ではその先に何があるかというのが特色だと思うので、大人と子供がこういうところがいいところだよと話し合えるには大人の教育というのが必要なんじゃないかなと思います。あと、アンケートについてですが、アンケートでいいところを出そうといって一人で出せる人はそういないと思うんです。そういう中でどうしたら特色が出るんだといたら、少人数でちょっと意見を出してくださいというところと案外出てくるものだと思います。そういうのを拾い上げてもらえるような体制になると意見というのが出やすくなると思います。あとついでに下久堅のことなんですが、先日新聞にも載ったんですが、小学校として5月末に地域の人と多様な講座を開いて活動していたのですがコロナの関係でできなくなってしまって、今年公民館と協力していろいろやらしてもらってます。おかげさまで

公民館でやるということで、公民館としても人が集められるといういいところがあったので、今年は3学年レクが行われたのですが、この後もコロナの影響がなく公民館と協力して他の学年のレクもできるといいなと思うのですが、親の教育というか、親が地域とつながれば子どもも自動的に地域につながるというのができていければなあと思っています。

委員 10 上久堅は中山間地になるのでとても人数が少ないんですけど、保育園も11世帯しかない状況であって、次の学年が2人とか、かなり容易に未来が把握できる地域。地域とつながりが深いということで、どこのうちが次に入るとかすべてわかっている状況でやっているんですが、学校運営協議会の資料を見させてもらって地域とのつながりだとかいろいろあるんですけど、委員1が言われたように大人からの意見のみだなあと感じとっておりまして、子どもたちは地域とのつながりを感じているのかなあ、自分も長女が6年生におるもんですから、地区でいろいろ行事をやってくれるし楽しいこともやってくれるのですが、誰がおったというのは全然覚えてないとか、あと人数が少ないことにより仲がいいということもあるんですけど、逆にいうと人数が少ないゆえに逃げ場もないという子どもも現状としてはおるんですよ。大きい学校ですといじめが見えないとかそういうこともあるかと思うんですが、小さい学校だと誰かともめるとずうーとその子と9年間隣にいなくちゃいけないというところがあって、上久堅でも合併がどうのこうのという話も、校舎の老朽化とか竜東中学校もだいぶ古くなってきておるのでそういうこともできておるんですが、そういうことを容易に予測ができるので今のうちに準備をこういう会で進め、方向性でも決めていければなあというところを期待しております。

委員 11 幼稚園代表で参加させていただいている。私の子どもはまだ小学校へ行くわけではないので門外漢のような意見になってしまいますが、保護者の立場からすると子供たちが少なくなって来ているのは事実ですし、コロナということもありまして子どもたち全体が大きく減ってきていることは小さな子どもたちを持っている私たちが一番の危機感を持っている。そういった中で、適正配置というのは正直避けられない話であろうというのはすごく感じておるところです。リニア時代を見据えて重点地区というような話もできておりますが、今の形を維持するのは正直言って難しい。切実な問題として感じていますし、私の子どもがあと10年たって中学生になった時に今の配置が残っておるかという難しいだろうということをひしひしと感じているところです。適正配置の話については小さな子どもを抱えている保護者はもうわかっていると思うので、ある程度示していただいて進めていただくというのが一つあるかなというのが個人的に感じておるところでございます。学校運営協議会のご意見を読ませていただいて思うところがございますけれど、特色ある学校づくりといったところにいろいろな意見がでておるかと思えますけれども、学校側のご努力ですとかそういったところで特色をとってお話を進めようかと思うんですけども、学校も義務教育の中でどこまで特色を出せるのかという意見もあるようですし、地域のことについても正直に言いますと今はコロナということもあるんですけども結構大変な時期だなと感じていまして、まして今まで地域を支えていただいている方々、諸先輩の方々と私どもは思うんですけども、団塊の世代の皆様、支えていただいている皆様の年齢も上がっていく、同じように私たちもできるかという非常に難しいだろうというのは本当に感じております。お祭り一つをとってもそうですし、地域の行事一つをとっても今までのように本当にできるのかな、そういうものをすごく感じていま

す。ですので、地域ごとの特色というよりかは飯田市全体でどうしていくのかとか、そっちの方を考えていくっていうのもひとつかな、と思いました。地域ごとというのは素晴らしい方向ではあると思うのですが、残せないものがきっとあるというのは切実な問題として感じております。

座長 地区との課題を共有するという事は並行してやっていくのだけれども、ただいま話されたことやその結果を示して保護者、子どもたちと共有させてもらいながらアンケートにつなげていった方がいいのではないかというご意見をいただいたと思っております。大卒では8ページに示したように進めようと考えているのですがよろしいでしょうか？ ありがとうございます。いただいたご意見は参考にさせていただきながら、必要があれば修正しながら進めていきたいと思っております。

時間もありますので次はアンケート調査についてご意見をいただきたいと思っております。アンケート調査について事務局の方で説明をお願いします。

#### アンケート調査について事務局の説明

事務局 アンケート調査(素案)について、今年度の進め方の中でも触れさせていただきましたが、昨年度から今年度にかけて学校運営協議会で行われた意見交換を基に、保護者への意向調査を予定しています。今年度の学校運営協議会で「特色ある学校づくり」をテーマに意見交換された内容は、別添資料とした学校運営協議会開催スケジュールの裏面以降に途中経過ではありますが、一時集約したものを参考に掲載してあります。こういった意見交換を基に、アンケートの素案を作成しました。資料の9pをご覧ください。アンケートの調査対象としまして、小・中学校に通う児童生徒の保護者と将来小・中学校へ通うこととなる、保育園幼稚園に通う園児の保護者を調査対象とします。調査時期は、この研究会の次回の研究会でアンケート内容や設問を最終確認いただき、11月下旬までに調査を実施したいと考えます。調査方法は、回答者の負担が少なく、かつデータ集積も簡素化できるように、携帯やパソコン、タブレットでの調査を予定します。また、集計結果は学校種ごと、地区ごと、中学校区ごとに集計結果をまとめ、今後検討を重ねていく上での重要な資料とさせていただきます。

今回、たたき台として、保護者用アンケートの素案を示させていただきました。問1、2は居住地や児童生徒の年齢といった基本的事項について。問3、4は学校の満足度について。またその理由について。問5、6は学校の特色や魅力について。保護者が思う特色や魅力についての具体的な理由などについて。問7～以降は少し踏み込んだ設問ではありますが、学校規模や適正配置に関する事について。期待されることや不安に感じる事、またそれらに関する自由記述の欄を設けております。

あくまでもたたき台という形でアンケート素案を示させていただきました。研究会委員の皆さんのご意見をいただきながら、11月下旬のアンケート調査実施に向け、設問内容等を詰めて参ります。

以上、アンケート調査(素案)について説明させていただきました。よろしく申し上げます。

座長 今のようなご意見を踏まえる前に作ったものでございますので、あらためて項目、内容、量等も含めてご覧いただき、忌憚のないご意見をいただければなあと思っております。

委員2 アンケートの内容をじっくりみさせてもらったわけではありませんが、3月に配布した保護者向けのチラシですね、それらに対しての感想や感じたこと等もこのアンケートで集約出来たらいいかなと思います。検討をお願いします。

委員10 調査方法について携帯かタブレットということなんですけど、紙ベースだと集約も大変だと思うんですけど、どうも違う人もいると思うので紙ベースでも用意したらどうか。あと細かいところですがQ3の不満な理由も書いてもいいのかなあと感じました。自分がよくわからないアンケートを受けるときに普通というところに大体〇をしてしまうんですけど、それをなくしてもいいんでは。何も感じない人がないとか普通に全部チェックを入れてしまうので、それでアンケートが終わってしまうこともあるのでは。

委員5 前半部分のアンケートとQ7以降のアンケートの内容が違うので、Q7以降は3月にそれぞれの学校で配った資料をベースに考えてもらうことが大事だと思いますし、それまでにそれぞれの学校が抱えている課題について保護者から意見を求めたり話し合った上でこのアンケートに回答してもらった方がよいか。あとという感じがします。適正配置という説明をされていない中でこのアンケートが出てくるというのはいろいろ心配なことがあるので、アンケートの趣旨をきちんと保護者に説明をした上で実施された方がいいかなという風に感じました。それとやはり内容については、例えばQ9のところは1番から7番がありますが、その内容をもう一度精査していただいた方がいいかな。なぜ①の向上心、協調性、競争心等が一番にくるのか、から始まって、アンケート項目の内容は内容に応じてきちんと統合できるものやそういったものも確認した方がいいと思いました。あと、前半の方のアンケートなんですけど、例えばQ4の(とても・まあ)と回答する理由は何ですか?ということなんですけど、自分が保護者だったらこの内容で〇するかってちょっと思うんですよね。子どもが楽しく学校に通えているとか、一人一人を大事にしてくれているとか、先生が熱心に指導してくれるとか、そういったものがちょっとないかな。なので学習や運動に関する指導っていうのは具体的にこのアンケートに回答する人がどんなように解釈するのか、ちょっとわかりづらいかなというふうに感じました。あと、自由記述の欄は書きたい人がいるので書けることを前提にそのスペースは設けるべきだなあという風に思いますので、自由記述の欄はもう少し考えた方がいいんじゃないかなという風に感じました。感想です。

委員9 表面(おもてめん)についていろいろ意見がでたので私もそれでいいのかなと思います。「ふつう」っていうのは要らないよね、というのは確かにそう思いますし、満足ならどう満足なのかっていうところに関して、ここには人に関するものがなにもないので、そういう面っていうのは大事なのかな。親はともかくとして子どもに学校の話や先生の話を聞くとあの先生がいい、あの先生が嫌だなというのは平気が出る話で、先生が特定の人をとるわけじゃないんですけど。うしろの学校の適正配置の話が始まっていると思うんですけど、Q8の検討が必要か必要でないかというのは置いてその先のどちらにしろという感じになっているので、じゃあ例えば人数の多いところに統合するメリットってなんですかってきいたってたぶん答えは来ないでしょうし、人数の少ないところに統合しないメリットって何ですかって言ったって出てこないしという感じがあるので、そもそも自分

の意志があつてその先というふうに別れた方が、たとえばその検討が必要で、かつどういう風に考えていくかというのが分かるかというのかあと思います。

委員1 学校の適正配置だとかあるんだけど、アンケートをどの範囲に出すんだか分らないんだけど、実際問題として考えると伊賀良小などの学区の中には合併とかそういうことはピンと来ていない部分が、鼎もそうだと思うんだに。今の時点では合併に必要なほどおそらく子どもがここ十年程で減るなんてことは考えられないんで、緑ヶ丘と松尾小学校あたりもそうじゃないかなと思うんだけど、何でもかんでもアンケートをするんじゃないくて、やっぱり必要に駆られた地区、ある程度は、でいいんじゃないかと思うんだけど。検討が必要ですか、っていつてもほとんど検討する必要がないって回答になるんじゃないかなあと思うんだに、実際問題として考えると。それでもアンケートをする必要があるのかな、という気がせんでもないんだけど。実際問題として考えて本当にこんなこと言っちゃいかんけど上久堅さんとか下久堅さんとか、うちの浜井場もそうなんだけど、14人とか入学の子どもがなってくると切実な問題になってくるわけよ。みんな何とかせにゃしょうないという考え方にはなるんだけど、実際問題としていっぱいおるところで合併が必要ですかとかいうアンケートを出してもなかなかアンケートの結果がどうかなあと思うんだけどそこらへんはどうなんでしょうか。

委員4 委員1と全く同じで、例えば根拠の中でも、生徒に対するアンケート、保護者に対するアンケートの中で、自己肯定感どうのこうのというアンケートがあるのですが、それを踏まえて先生方がこうしようということを決めると思うんです。で、今回のアンケートの場合は差し迫った問題でない地域も委員1のおっしゃる通りあるだろうし、ほんとに差し迫った地域もあるだろうし、それをどの程度のアンケートでどういうふうにまとめるのが大問題だと思うんですよ。結果的に飯田市全体で、先ほど委員9がおっしゃったみたいに飯田市教育委員会としての特色なんていうのならいいと思うんですけど、各地区ごとの小さいところも大きいところもありながらさあこれをどういうふうにまとめていくの、アンケートの結果をどうまとめるんですか、っていうのはねえ、なんか同じような結果になっちゃいそうな気がしてしょうがないんですけど、そのへんがどうかな。

委員3 上村あたりは特区ということで今飯田市内から10数名通っていただいてそれこそ維持してもらっているような学校なんですけど、その中でそういった学校の適正配置だと、そういういまわしい統廃合によっているようなかい？が、内容的にアンケートの中のどこに○をしたらいいんだろう、というような感じがして今見ていたんですけど。

委員7 地域の皆さんのお話を聞いていると確かにそうだなあと思いながらも、先ほど7ページの各地区だとか学校の検討課題っていうのが出てくると思うんですけども、そこでの客観的なデータっていうのを、アンケート結果を一つの根拠にしてもいいのかなっていうようなことも言えると思うんですよ。ただそれが今何人かの人のお話を聞いていて根拠エビデンスになるのだろうかとか、はたして必要性があるのだろうかというところをお聞きしながら私自身ちょっと考えました。

委員9　大前提として、Q8「統廃合について検討が必要だと思いますか」という聞き方をされたとして、私だったら単純に嫌だっていうか、私の思いは嫌だ。さっき委員11が最終的には統合されていくのはやぶさかではないというようなニュアンスを言っておられたと私は思うんですが、単純に地域の人として学校なくなっちゃうの嫌だなという思いがある。なのでしかたとして、たとえば下久堅より上久堅の方が少ないんですけど、学校なくなったらどうってざっくばらんに振られた時の返答って嫌じゃないっていうのがどっかにあると思うんですけど、いやなくなっても別にいいよ、っていうのも・・・

委員1　それってさあ、親はそう思うんだけど、本当に子どもが要するに思っているかどうかっていうのは別だと思うな。そいだもんで結局統廃合の問題になるかいろいろな学校が一緒になるという問題が出てくるときに、親のエゴが出ちゃうとまったくなんにもならなくなっちゃうのよ、はっきり言うと。親が出たから、それはそれでおれらだって丸山へいったりしとるもんでそういう意識がもちろんないとは言わないけれども、親がそういう意識を持ちちゃうと、もうこの問題っていうのはほとんど解決ちゃうかできるあれじゃなく、考えても何してもどうしようもなくなっちゃう。親の考えももちろん大事だと思うけど本当に大事なのは子どもたちにとってどうしてやったら一番いいことかっていうことを考えることを優先してもらわんと、おれら学校がなくなっちゃうんで悲しいなんて言っていたらこの問題話しても何しても先へは進まん。大人のエゴはここにはある程度殺してもらって子どものためにどうしてやるのが一番いいのかちゅうことを考えてもらわんと、こういう物事絶対先へ進んでいかないと思いますよ。多分。

委員9　結局のところ、こういう話になると思うんですよ。個人の意見をいったらそれで終わっちゃうので。完全に拾ってもらって。私はそれでいいです。

委員10　すみません。僕は名古屋からIターンできたものですから、地域の学校に思い入れがないんですよ。ましてや名古屋の自分の出た学校にも全く思い入れがないので、なくなっても何しようがいいんですけど、子どもが今通う学校がいい学校かどうかということが重要であって、例えば何十年も木造でずーっとやってきて大切に扱ってきた校舎を壊すのは忍びないという意見も当然出ると思うんですよ、卒業生やら何やらから。ただそれが、例えば耐震でもう無理だ、子どもたちが教育できる場ではないという意見が出たときに、いやそれでも・・・と言えない状況になるんですよ。なのでまあ、子どもたちのことを大事に考えれば僕はいいかなと。はい。

委員4　私、小学校2年のとき大久保小学校が閉校になりまして、追手町と浜井場に分散吸収、統廃合になったんですけど、子どもたちは割合平気でしたね私の子どもでもでしたけど。アーこういうもんなんだと思ったし友達も増えたし。だからお子さんたちっていうのは案外ポジティブに捉えていくんじゃないかな、さっきの話を聞いてね。そこに大人の考えが入りすぎると、っていう部分も、アンケートのやり方次第ですけども。まとめとしたらやっぱり教育委員会の方で指針を示してくれた方が、もうこういう現状の問題があるんですから課題があるんですからそれの方が与しやすい気がしてしょうがないですね。感想ですけど。

座長 様々なご意見をいただきましたので、すべてをうまく活用した形になれるかどうか、まだ何とも言えないところですが、貴重なご意見をいただきありがとうございました。とりあえず今日のところはだいぶ時間がすぎてしまいましたがここまでとしたいと思いたいと思いますがよろしいでしょうか？はい、ありがとうございます。それでは進行の方をお返ししたいと思います。

7 連絡事項 第2回取組研究会開催予定:令和4年11月頃

8 閉会 後藤副座長

長時間にわたり皆様本当にお疲れさまでした。私も最初からここに出席させていただいておってなんかスピードが遅いなあって正直感じたところでもあります。実は、先ほども委員8から話がありましたけれども、遠回りのようで、という本当に大事にしたいなと思った今年、令和4年だと思う。そういう意味でアンケートも出てきたし、それから運営協議会でどうやって話をしていくかということも出てきて本当にいいことだなあとと思います。すでに行われた運営協議会の様子も読ませていただいてなるほどなあっていうことがいっぱいありました。私も一住民として保護者に配布されたものを見る機会もありましたし、あれが配ったら届いているなんて思ったら大間違いだと思ってるんですね。学校の先生はよくありますね、話したじゃないかって。話したって意味ないですね。子どもが聞いていなきゃあ。そういうこと考えますと、ほんとに遠回りのようだけど決して決して時間はやっぱり非常に意味があるといひましようか、無駄な時間は一つもないと思ってるんです。本当に大事なことだと思います。今日、委員1からも委員4さんからも出ましたけれど、一番最初に確認した「子どもを真ん中において」ということを確認したわけですね。進め方とすると「子どもを真ん中において」のアンケートになっているのかとか、「子どもを真ん中において」運営委員会が開かれているのかとか、これはいつも自分に問うことだなあと感じておりました。そういう意味で、事務局の皆さんは本当に大変だと思いますが、これから11月に向けての活動が始まりますがよろしくお願ひしたいと思いたいます。「子どもを真ん中において」ということと。もう一つ、なぜこんな話し合いを今やっているのかっていう一番の課題は令和2年のところにもありますように、最初教育長さんよりお話がありましたように、子どもの数が減少しているという現実問題ともう本当に待ったなしの校舎改築の問題、そして税金に関わる税の問題、いわゆるお金の問題、それが突きつけられている、それをあと5年後、10年後というスパンで今始まっていくわけですので、そこを忘れてしまうといつの間にか的はずれになってしまう。

先輩から教わったことわざに「一分八間(いちぶはっけん)」ということわざがあります。一分は3ミリ、一分の10倍が一寸、3センチ。その10倍が尺、30センチ。そして間(けん)1.8mくらい。一分八間ということわざなんですけれども、ほんとに最初のところ、3ミリずれただけでも、これは弓から生まれたことわざのようなんですけれども、14~15m違ってくると言われた若いころの覚えがあつて、いつも肝に銘じているのですけれども、そういうことを考えますと、私たちだって絶対忘れちゃいけないのは出発点であるところ、ここは大事にしておかないといけないなということを今日改めて感じました。

時間のないところ、長時間話をしてしまいました。ほんとに皆様お疲れさまでした。